

研究の動機および目的

現在世界のほとんどの地域で行われている近代スポーツは、そのほとんどが英国をはじめとする西洋から伝わったものが多い。世界に進出していったこれらの地域の人々は、彼らにとっての新しい土地に自国のスポーツを持ち込んだ。こういった近代スポーツの伝播は決して一方向的なもののみではなかったが、少なくとも、彼らを媒介としてスポーツが双方向に伝播したことを疑うことは難しい。

しかし、英国のすぐ近くのアイルランドでは、英国産の近代スポーツよりも自国の伝統スポーツが盛んに行われてきた。そこでは、1971 年まで、英国産の近代スポーツは行うことはおろか観戦することさえも禁止されていた。彼らは自分たちのアイデンティティを守るためにスポーツを一つのシンボルとしていた。英国のアイルランド支配は、政治的な面だけでなく文化的な面にも及んでいた。その最も特徴的なものが言語である。アイルランドでは、第一公用語がアイルランド語であるにもかかわらず、都市部の人々は英語で話す。アイルランド語を話すことのできる人は 40% しかないといわれている。そういった文化的な支配に関わらず、彼らは長い間自国のスポーツを守り続けてきた。多くの英国の植民地地域は彼らのスポーツで彼らを打ち破ることにより、支配されている劣等感を跳ね返してきた。それではなぜアイルランドではそういった多くの地域と異なり自国のスポーツの独立にこだわったのだろうか。

19 世紀後半は英国でスポーツ熱が高まった時代であり、英国からやってきた学生や軍人によって、アイルランドでも英国のスポーツが行われていた。そういった時代背景の中、ハーリングなどの伝統スポーツを統括する組織として GAA がマイケル・キューザックらによって設立された。アイルランド史を概観すると、この頃アイルランド人の民族意識が高まった出来事として、伝統スポーツの復活・GAA の設立について数行述べられている。また、自治運動の指導者の葬儀の時、儀仗兵は銃の代わりにハーリングを持っていたというエピソードもある。このように、この組織はスポーツ組織というほかに、政治的な側面をもっているといわれている。

この組織がアイルランドの伝統スポーツを守るのに果たした役割は大きい。また、ハーリングがアイルランドのナショナリズムのシンボルとして利用され、GAA が政治的な活動の一端を担ったことも明らかにされている。しかし、これらの研究は GAA を設立から現在までの歴史を概観するだけで、組織の活動について、詳細に検討されていない。そのため、GAA の設立時の目的についても相違点が見受けられる。

以上のことから本研究では、ハーリングなどの伝統スポーツの統括組織である GAA に焦点をあて、その設立過程を設立者であるマイケル・キューザックの活動を中心に追うことにより明らかにすることを第一の目的とする。第二に、その設立過程においてこの組織が、どのように政治活動と結びついていったのかを明らかにする。第三に、近代スポーツに反発しながらも、近代化の概念を取り入れていった過程を明らかにする。以上の三点を目的とする。

研究の方法及び限界

19 世紀後半に設立された GAA の政治性を検証するために、6 冊の文献を用い整理する。GAA の設立過程については、アイルランドの 2 人の著者の 3 冊の文献を訳出し、整理する。

GAA の設立過程を中心に、アイルランドの政治・スポーツ状況を概観するためには、それを包括する英国の政治・スポーツ状況なども概観しておかなければならない。しかし、本研究では時間的制約のため、そういった部分まで手が回らなかった。また、日本ではほとんど研究されていないことと、アイルランドのハーリングというローカルなスポーツに視点をあてたため、限られた文献しか手に入れることができなかった。さらに、政治史を理解する上で、アイルランドの政治史はさまざまな歴史家が独自の視点によって解釈することから、定説があるとはいえない部分もあり、そういった点はいくつかの説を提示するか、一般的な説といわれているものを採用せざるを得なかった。

19 世紀当時のアイルランドの社会背景

ケルト民族の国アイルランドは、5 世紀頃からキリスト教が信仰されていた。1169 年にノルマン人（英国人）の侵略を受ける。その英国が 16 世紀末のヘンリー 8 世、エリザベス女王時代にプロテスタントに変わると、北アイルランドにプロテスタントのスコットランド人を入植させて、アイルランドを世界最初の植民地にした。アイルランド人は英国に対して反乱を起こすが、英国軍によって鎮圧される。その中でも特にクロムウェルによるものがひどく、長い間その体験はアイルランド人に語り継がれていた。

1801 年にはアイルランドは英国によって併合される。しかし、アイルランド人の「分離主義者」の抵抗は続く。しかし、そういったいくつかの反乱は国をあげての大規模なものにはならなかった。

1845-49 年に起こった大飢饉はアイルランド史における大きな転換点だった。結果として 800 万人ほどあった人口の 200 万人が死に、同じ数の人々が国外へ逃げて出した。このことは、アイルランド文化の継承者が半分になってしまったことを意味していた。

英国からの分離をのぞむ IRB は、1867 年に蜂起するが鎮圧される。その後彼らの残党は地下にもぐり組織を再編成しようとする。1880 年代、いったん分離主義者は表舞台から去り、代わって英国からの自治を望む集団が登場する。特に彼らのリーダーパーネルはアイルランド民衆から大きな支持を受け、カトリック教会との結びつきを強め、農民たちの土地同盟とも協力して自治運動を展開する。彼らの活動がアイルランド全土にいきわたった原因として、彼らが発行した機関誌がある。この機関誌によって、一部の地域だけでなく多くの人々がその活動を理解することができた。

GAA が設立された頃のアイルランドを整理すると主に 3 つの宗教と 3 つの思想がある。宗教はアイルランドの支配者層、英国人の国教である英国国教会派、およそ 200 年前からやってきたプロテスタント、そして土着のアイルランド人とアングロ=アイリッシュと呼ばれるアイルランドでは最も多いカトリックの人々である。政治思想としては、英国の連合派、英国からの自治を求める自治派、英国からの独立を求める独立派の 3 派がある。これら 3 つの宗教と 3 つの思想が入り乱れていたのが当時のアイルランドだった。

マイケル・キューザックの活動

マイケル・キューザックは GAA 創設の主要メンバーで、彼なしではこの組織がこの時代に設立されることはなかったともいわれている。彼は若い頃 IRB に参加しており、愛国主義的な考え方をもつ人物だった。彼はアイルランド各地で教師をしていたが、やがてダブリン近郊で公務員を養成するための学校を設立する。

この頃ダブリンでは、英国の上流階級の子弟が通うトリニティカレッジを中心に、スポーツ大会が開催されていた。キューザックはこのスポーツ大会に夢中になった。しかし、彼はやがてアイルランドで英国人によってスポーツ大会が開催され、アイルランド人たちがいないがしろにされていること。また彼らの開催する協議会のプログラムにアイルランドの伝統的なスポーツが加えられていないことに不満を持つようになる。そこで彼は、アイルランド人によるスポーツ大会を組織しようと決意する。以後の彼の GAA 設立の主な活動を以下のように整理できる。

- ① 1882 年 12 月ダブリンハーリングクラブの設立。この組織によってアイルランドで最初のオープン参加の大会が開催される。
- ② 毎週土曜のダブリンのフェニックスパークでのハーリングの練習を開始する。
- ③ アイルランド人による競技会の自治とハーリングの復活を平行して行うことを決意する。
- ④ 自治法の雑誌に自分の計画を載せ宣伝する。
- ⑤ 1884 年初頭ダブリンのチームとゴールウェイ州南部のチームの間でハーリングの試合が行われる。この試合は成功しなかったが、キューザックは統一されたルールの必要性を感じる。また地方を統括する機関が必要だと感じた。
- ⑥ 1884 年の夏、アイルランド各地を訪れ自分の考えを話した。この時に、カトリックのダガン司教と GAA の初代会長となるモーリス・ダヴィンとの接触があった。
- ⑦ 1884 年 10 月の最後の週に、新しいスポーツ組織を設立するという内容の回状をキューザックとダヴィンの署名のもと発表した。

そして、1884 年 11 月 1 日に GAA の設立会議がマンスター州のサーリスで開催される。

GAA 設立 (1884)

11 月 1 日の設立会議に出席したのはたった 7 人の人物だった。さらにこの会議で決定されたことは、

- ・ この組織の会長と幹事 3 人の選出。
- ・ この組織のパトロンを 3 人の代表的なナショナリストに要請すること。
- ・ アイルランドの伝統スポーツのための統一されたルールの起草すること。
- ・ この組織の名前をそのまま目的を表した“the Gaelic Athletic Association for the Preservation and Cultivation of National Pastimes” とすること。

以上の 4 点を取り決め、次回の会議のことは話し合われず散会となった。この会議はただ招集されたから開催されただけのものであった。

2 回目の会議は年が明けてから、ハーリングなどがまだ盛んに行われていた地方都市コークで開かれる。キューザックはこの会議が開かれるまでに、3 人のパトロンの支持を獲得した。2 回目の会議には、16 人の出席者がいた。この会議は政治家たちによって支配されたものになる。この日の議事はアイルランド国民党の議員によって進められ、GAA の中央委員が選出されたが、内訳は、GAA の役

員 4 名、アイルランド民族同盟の組織委員 (25 名)、そして追加として、アイルランドで認められているそれぞれのアスレチッククラブから派遣された各二名の代表者、これら全員が中央委員となった。この会議によって、GAA はアイルランド国民党の息のかかった人たち中心のものとなった。

まとめ

以上のことから以下のように GAA の設立過程を整理することができる。

- ① GAA の設立者であるキューザックはアイルランドで英国中心のスポーツが行われていることに不満を抱き始め、アイルランドのスポーツの統括組織の設立を決意する。
- ② キューザックの活動は、はじめは宗派思想に関係なく全てのアイルランド人を対象としたものだった。
- ③ キューザックの活動がナショナリストの機関誌を利用したものであり、その目的がアイルランドの伝統スポーツの復活というものだったので、自然とナショナリストに支持される組織となっていく。
- ④ GAA の基礎を築くために、パトロンに 3 人のナショナリストを選んだことがこの組織が政治色を強くする大きなきっかけとなったと考えられる。
- ⑤ GAA は英国によるスポーツの支配から、アイルランドの伝統スポーツを保護・養成することを目的に設立されたが、その組織は英国のスポーツ組織のような形であり、近代的なものだったと考えられる。

今後の課題

今後の課題を以下のように整理する。

- ・ 今回は主に 3 冊の文献を用い GAA の設立過程を明らかにした。しかし、他にも GAA について研究された文献があるので、それらを収集し、細かく検討する必要がある。
- ・ スポーツ組織と政治とのかかわりという点で、以後さらに加熱するアイルランドの独立運動のなかに GAA がどのように関わっていくのかを考察していく必要がある。
- ・ 近代スポーツの伝播という点から、他の英国の植民地支配を受けていた国のスポーツとの比較、アイルランド国内で行われた近代スポーツの状況も同時に整理していく必要がある。

参考文献一覧

- 海老島均 (1998) 『分断された社会におけるスポーツ—アイルランドにおけるスポーツのシンボリズムと文化的多様性に対する寄与に関する研究—』スポーツ社会学研究 6 pp.97-102
- 石井昌幸 (1996) 『黎明期のゲール運動競技協会に関する覚え書き』スポーツ史研究第 9 号 pp.49-57
- アレン・グットマン/谷川稔訳 (1997) 『スポーツと帝国』昭和堂
- リチャード・キレーン/鈴木良平訳 (2000) 『図説 アイルランドの歴史』彩流社
- Marcus de Burca (2000) THE GAA A History, Gill & Macmillan
- Marcus de Burca (1989) Michael Cusack and the GAA, ANVIL BOOKS